計画等の進捗状況一覧（令和６年度）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	責任部局 （実施部局）	計画の 進捗状況
番号	内容	根拠となる自己点検評価結果等 【】内は年度計画番号			
1	課題解決型インターンシップ受入企業数が目標値に達していない。	令和５年度計画評価【1-1-1】	課題解決型インターンシップについては 11 社に留まり年度計画の「達成を目指す水準」を下回った。令和６年度以降の目標達成に向け、令和６年度においては２社との実施が決定している他、NPO 法人との連携のもと、インターンシップ受入企業の増加を図るための検討を行った結果、令和６年度は 13 社がインターンシップ受入企業となり、現時点で、令和６年度の「達成を目指す水準（13 社)」に達している。	教育機構 （教育機構）	□　検討中 □　対応中 ■　対応済 □　その他 （　　）
2	受託研究の件数について達成を目指す水準を達成できていない。 達成水準は期間中の平均値を設定しているところ、２年連続してその平均値を下回っているため、特に改善への取り組みを強化する必要がある。	令和５年度計画評価【1-2-1】	受託研究について、URA オフィスやオープンイノベーションセンターの協力を得て、教員に対してさらに応募を促すと共に、申請に向けた支援を行う。 とりわけ URA オフィスでは、各公募事業の対象となり得る教員への個別案内を積極的に行い、申請支援及び申請に繋げることで、件数の増加を目指す。	研究機構 （研究機構）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）

3	授業評価アンケートの総合満足度が相対的に低い科目群に対して、ＦＤ活動などを通じた教育改善への取り組みが求められる。	令和５年度計画評価【2-1-1】	授業評価アンケートの総合満足度の平均値を向上させるため、令和６年度は全体の科目に対して継続的に教育改善に取り組みつつも特に英語科目に対してなんらかの対策を行う必要がある。 具体的には、授業評価アンケートの分析結果に基づくＦＤ催や、アンケート結果を用いた教員表彰・改善手続きに関する制度立案、英語科目の開講方法変更などの検討を実施する。	教育機構 （各学部･研究科･教育機構）	□　検討中 □　対応中 ■　対応済 □　その他 （　　）
4	目標値の達成に向けて、留学支援をさらに強化していくことが求められる。	令和５年度計画評価【5-1-1】	留学促進として、留学経験者との交流会、体験談情報の提供、協定校からの派遣交換留学生と学内での交流を図る国際共修プログラムの充実を図り、留学への機運を高める。 留学に係る費用を負担する保護者へのオンライン説明会を実施し、留学についての理解を深めてもらう。 協定校への派遣交換留学について、円安、物価高等の経済状況の家計への影響に対して、埼大みらい基金により経済支援を実施する。 令和６年度の語学研修について、新規のプログラムを計画し実施する。 その他に、協定校を始め海外の大学で実施しているサマープログラム等の短期派遣プログラムについて、多くの情報を学生に案内し、海外で学ぶ機会をより提供するなど、各対策を講じて派遣学生数を増加し、目標値達成に取り組んでいく。	国際本部 （国際本部）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）
5	学生への留学の意義、修学状況について確認し必要に応じて指導・助言を行うことが求められる。 また、円安等の影響による家計への経済面の負担が影響していると考え	令和５年度計画評価【5-1-2】	学生への留学の意義、修学状況について確認し必要に応じて指導・助言をおこなっていく。 円安等の影響による家計への経済面の負担が影響していると考えられることから、経済的支援策を講じて派遣学生の増加に繋げ、目標達成のために取り組んでいく。	国際本部 （国際本部）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）

	られることから、経済的支援策を講じて派遣学生の増加に繋げ、目標達成のために取り組むことが求められる。		留学中の学生に対して、大学の授業履修状況や留学生活についての報告による確認を毎月行い、必要に応じて助言をおこなうなど、しっかり単位取得に向けてサポートしていく。		
6	アンケート結果を分析し、引き続きプログラムの改善に取り組むことが求められる。	令和５年度計画評価【5-1-3】	アンケートの結果、５項目のアンケートは目標値 80%以上を達成したが、語学交換プログラムについては目標値を達成できなかった。 今回、マッチングについての対策を講じて取り組んだが、達成に至らなかった。アンケートを分析し、引き続き改善を図り、目標値達成に向けて取り組んでいく。 満足度が５段階で上位２段階までに至らなかった学生に対してヒアリングを行い、プログラムの改善を図り、再度プログラムに参加しての満足度達成に取り組む。	国際本部 （国際本部）	□ 検討中 ■ 対応中 □ 対応済 □ その他 （　　）
7	オンデマンド・コンテンツプロジェクトチームにおいて、年度計画進捗状況の点検及び改善に取り組み、実働ワーキンググループにおいて具体的作業を行い、目標達成に向けて取り組んでいくことが求められる。	令和５年度計画評価【5-2-1】	オンデマンド・コンテンツプロジェクトチームにおいて年度計画進捗状況の点検及び改善に取り組み、実働ワーキンググループにおいて具体的作業を行い、目標達成に向けて取り組んでいく。 プロジェクトチームにおいて、令和６年度年度計画の年度末累計科目数を４４科目と決定し、進捗状況を把握しながら目標値を達成する。	国際本部 （各学部・研究科・国際本部、教育機構）	□ 検討中 ■ 対応中 □ 対応済 □ その他 （　　）
8	ダブル・ディグリー・プログラム締結に向けて協議し、派遣交換留学とオンラインを活用したダブル・ディグリー・プログラムの整備に向けて取り組むことが求められる。	令和５年度計画評価【5-2-2】	ダブル・ディグリー・プログラム締結に向けて協議し、派遣交換留学とオンラインを活用したダブル・ディグリー・プログラムの整備に向けて取り組んでいく。 サマープログラムにおいて、試行的にオンデマンド・コンテンツの授業を開講し、満足度アンケートを実施する。	国際本部 （各学部・研究科・国際本部）	□ 検討中 ■ 対応中 □ 対応済 □ その他 （　　）
9	留学生の受け入れ状況分析を行い、	令和５年度計画評価【5-3-1】	留学生数の受け入れ状況について分析を行い、増加に向けて方	国際本部	□ 検討中

	増加への方策をたて取り組むこと、計画的に交流会を実施し、ＳＮＳのネットワークによる持続的な卒業生・修了生との繋がりを構築すること、これにより留学生のキャリアパス状況を把握し、在学生や受験生に向けた情報発信を行い、次世代の優秀な留学生の獲得、輩出に繋げていくことが求められる。		策をたて取り組んでいく。 計画的に交流会を実施し、ＳＮＳのネットワークによる持続的な卒業生・修了生との繋がりを構築する。これにより、留学生のキャリアパスの状況を把握し、在学生やこれから埼玉大学への入学を志望する受験生に向けてＳＮＳにて情報発信を行っていき、次世代の優秀な留学生の獲得、輩出に繋げていく。 令和６年度は、９月にバングラディシュの卒業生・修了生とのオンライン交流会を計画している。	（各学部・研究科・国際本部）	■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）
10	科研費受入数を増やすために若手のサポートをより重視することやアドバイザー支援を強化する等、新しい取組が求められる。	令和５年度計画評価【7-1-1】	著書数、論文数については、令和５年度の状況を踏まえた上で、令和６年度以降も引き続き各学部・研究科において評価指標の周知に努めると共に、積極的な成果発信を働きかける。 科研費受入件数については、応募件数・採択件数が減少しているものの、採択率が微増している状況を踏まえ、応募件数を増やすための取組と、採択率をさらに上げるための取組のそれぞれについて、継続的に実施していく。 応募件数を増やすための取組としては、科研費説明会において、重複申請が可能な種目の情報等、申請に繋がる有益な情報を提供すると共に、若手研究等の申請対象者が限られる種目における該当教員への個別連絡等を行う。 また、採択率を上げるための取組として、科研費アドバイザーやＵＲＡによるチェックを受けた申請のほうが採択率が高いことを踏まえ、積極的にチェックを受けてもらえるよう周知すると共に、チェック機能の更なる充実のため、チェックポイントを共有することや、希望者には対面でのアドバイスを行う等の改善を	研究機構 （人文社会科学研究科・教育学部・理工学研究科）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）

			新たに行う。		
11	女性教員比率が目標値に達していないことは改善を要する。	令和５年度計画評価【9-1-1】	女性教員比率は、新規採用を順調に行ったとしても、退職者が出る事により、大きく比率が下がることがある。このことから、令和５年 11 月 16 日の全学運営会議にて、各部局長に、女性教員の積極的な採用を依頼するとともに、女性教員定着のための取組を推進することを周知した。 女性教員採用に関しては、各部局の現状（定年等による退職者数の予定）を把握し、それを見込んだ人事計画を早い段階で提示することを、全学人事委員会と連携しながら求めていく。 令和６年３月末には、各部局から令和６年から９年度までの採用計画を示していただいた。令和５年３月 31 日時点で、女性教員在職比率は 19%であったが、令和６年７月１日現在では、20.4%となっている。 女性教員の定着に関しては、これまでの研究補助制度、ワーク・ライフ・バランス支援制度等を見直し、女性教員にとってより魅力的な教育・研究環境の実現をはかる。 また、大学全体の構成員のさらなる意識啓発にも積極的に取り組む。具体的には、研究補助制度の手続き、支援期間および支援額の見直しを図り、新たな制度として募集を行っている。保育室兼女性教員の休息の場である「さいだいメリンルーム」を新たに設置した。 また、女性研究者の会（懇談会）などの機会を年に複数回設定し、採用された女性教員に積極的に関与していくことで、女性研究者の採用や置かれている状況についての課題を具体的に把握していく。	ダイバーシティ推進センター （人文社会研究科、教育学部、理工学研究科、ダイバーシティ推進センター）	□ 検討中 ■ 対応中 □ 対応済 □ その他 （　　）

			業績が十分である女性の昇任を促進する研究教授のシステムの構築を提案していく。 全学的な意識啓発については、アンコンシャス・バイアス、アファーマティブ・アクション、ポジティブ・アクションの意義についての理解増進のためのＦＤ／ＳＤ研修を年複数回実施する。		
12	「障がい学生支援室」の開設は大きな前進と受け止めるが、その内容に関してはまだ途上であり、さらなるスピードアップと内容の充実が求められる。当該の学生はもとより、「障がい学生」と日常的にどう向き合うのか、学生及び教職員への理解と働きかけをお願いしたい。	令和５年度外部評価（6-1-1）	令和５年度は障がい学生支援室規程で定める支援室会議を８回開催し、主に以下のような取組を行った。 １．本学における障がい学生支援制度の問題点等の分析及び制度の見直しについて （１）合理的配慮見直し作業を推進 （２）合意書作成に伴う電子契約サービスの導入 （３）障がい学生支援制度としての長期履修制度を導入 ２．障がい学生への支援に関する理解促進及び普及啓発活動の強化について （１）障がい学生支援室のＨＰをリニューアル （２）障がい学生支援室（合理的配慮）に関するＦＤ研修会を開催（参加率 90.8%） （３）障がい学生支援室における、学生からの相談 120 件、教職員からの相談 69 件 ３．事務手続きに関する注意喚起 修学上の合理的配慮提供の開始の遅れや、授業担当教員への周知漏れ等により、障がい学生の修学に影響が生じないよう迅	教育機構 （教育機構、ダイバーシティ推進センター、国際本部）	□　検討中 □　対応中 ■対応済 □　その他 （　　）

			速かつ確実に処理することが求められる。特に、事務手続きの不手際により障がい学生の修学に悪影響を及ぼすことは許されるものではないため、令和６年２月に学務部長から各学部・研究科支援室事務長に対し「障がい学生の合理的配慮に関する事務手続きについて」を通知し、「修学上の合理的配慮申請の流れ」や「授業担当者への依頼文書の取り扱い」など改めて周知を行った。 令和６年度に障がい学生支援室が行った主な取り組みは以下のとおりである。 １．障がい学生支援に関する研修動画を作成し、教職員採用時研修に活用している。 ２．重度聴覚障がいの学生を支援するために、在学生に対して障がい学生サポーターの募集を行い、33 名の応募があり、第３タームから障がい学生が受講する授業を対象にパソコンノートテイクによる学修支援を開始している。		
13	著書数、論文数、科研費受入件数について目標値を達成した研究科もあるが、著書数では理工学研究科が、論文数では人文社会科学研究科及び教育学部が目標値に達していない。とはいえ研究成果の発表の場として、文系は論文よりも著書が、理系は著書よりも論文が多い傾向は理解できる。 また、科研費受入件数は目標値に対して達成率は９割強であった。応募件	令和５年度外部評価（7-1-1）	指摘事項の改善に向けて、令和６年度に研究機構で実施した取組は以下のとおり。 （１）競争的外部資金獲得及び各種研究推進を支援するためのサポート経費（研究費）の配分 研究推進室会議での審議を経て「競争的資金獲得及び各種研究推進を支援するためのサポート経費」を以下の内訳において配分した。 ・若手研究者サポート：49 件 ・グローバル化推進サポート：９件	研究機構 （研究機構、人文社会科学研究科、教育学部、理工学研究科）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）

	数の減少にも関わらず、採択件数はほぼ横ばいであるが採択率は上昇していることから、今後は科研費応募者の掘り起こしに期待したい。		・科研費不採択者へのサポート：31 件 ・科研費複数応募者インセンティブ：30 件 ・科研費以外の大型外部資金不採択者へのサポート：７件 （２）科研費アドバイザーによる申請支援 アドバイザーチェックを受けた申請のほうが採択率が高いということを踏まえ、アドバイザーを８名に増員し、合計 55 件の申請書作成支援を行った。併せて、新たな取組として希望者には面談を行った。 （３）研究強化教員制度による支援 研究時間を優先的に確保することにより当該教員の研究活動の強化を図るため、令和７年度も令和６年度と同数の 37 名を採択した。		
14	移動を伴わない国際化ツールとしてのオンライン教育をさらに進化させる必要があると考える。対面、オンデマンド、オンラインだからこそできる教育手法を研究し、学生、教員ともに海外との教育、研究、交流が日常化するような、通信インフラの充実とその教育方法の進化を促進すべきと考える。	令和５年度外部評価（5-2-1）	令和６年１月に、オンデマンド・コンテンツプロジェクトチーム及び実働ワーキンググループを設置し、全学的に取り組む体制を整備した。 令和６年２月にプロジェクトチーム会議を開催し、オンデマンド・コンテンツ作成・活用方針を決定した。これにより、オンデマンド・コンテンツの作成を計画的に進めることとした。 令和６年度の作成計画で、部局ごとの作成科目本数を決め、全体で 35 科目、令和６年度末累計で 43 科目を作成することを決定した。 定期的に、作成担当教員に進捗状況を確認し、現在作成中のものは、令和６年度末での作成達成に向け取り組んでいるところで	国際本部 （各学部･研究科、国際本部、教育機構）	□　検討中 ■　対応中 □　対応済 □　その他 （　　）

			ある。 　オンデマンド授業を活用した国際プログラム拡充、海外協定校との連携については、オンデマンド・コンテンツの作成とあわせて、授業活用に向けて取り組んでいくところである。		
15	ＳＮＳを活用して留学生（卒業生・修了生）のネットワークの構築と情報発信について実施されていない。これは海外からの受験生の確保だけではなく、就職先の開拓にも繋がる重要な取組であることから改善に期待したい。	令和５年度外部評価（5-3-1）	令和６年３月に、スリランカの卒業生・修了生とオンライン交流会を実施し、卒業生・修了生 24 名、在学生 12 名、教員５ 名が参加した。令和６年９月には、バングラディシュの卒業生・修了生とオンライン交流会を実施し、卒業生・修了生 34 名、在学生 14 名、教員９ 名が参加した。当日は、スリランカ、バングラディシュシュそれぞれと関係の深い教員から、研究の近況について説明、卒業生と在学生それぞれ１名から近況について発表があり、その後、参加者をグループに分けて交流を図った。 　卒業生等と教員とで、懐かしい対面の機会となり、今後もお互いに繋がりを持続していく良い機会となった。今後も、引き続き計画的にオンライン交流会に取り組んでいくこととする。 　キャリアパスについては、アンケートを実施し、ＳＮＳ等で情報発信している。	国際本部 （各学部･研究科、国際本部）	□　検討中 □　対応中 ■　対応済 □　その他 （　　）